

令和4年度 第2回佐久市立図書館協議会 会議録要旨

1 会議概要

日 時	令和5年2月16日(木) 13:30~15:00
場 所	中央図書館 視聴覚室
出席者	佐久市立図書館協議会委員9名(欠1名) 柳澤優子、佐藤秀彦、白石奈美、江原真理子、須崎慎一、丸山美代子、井出次枝、加藤伸、清水彰 事務局5名 土屋社会教育部長、高橋事務長、市川係長、高瀬専門員、布施主査、竹内主任、中村主事
資 料	・ 会議次第 ・ 令和4年度第2回 佐久市立図書館協議会資料 ・ 図書館協議会補足資料 ・ その他資料 ・ 再整備関係資料1~4
《発言》	《会議事項》
事務局 委員	(1) 令和4年度事業報告(資料p.1~8) 【事務局から説明】 移動図書館車(以降 草笛号)の利用がやや少ない。草笛号を知らない人もいると思うが、周知に力を入れてほしい。現在、広報等では、どのような方法で周知をしているか。
事務局	広報の4月号の別冊により、年間予定として、巡回コースと時間等を掲載している。また、貸出数が減少しているステーションには、該当地区の区長を通じ、回覧板で草笛号の周知をしている。
委員	草笛号を詳しく知らない人や転入者には、ステーションの場所や利用方法を詳しく知らない人もいる。図書館に行けば詳しい案内があるのか。
事務局	補足であるが、コロナ禍(2年半前)により学校が一斉休校となった際、教育委員会と協力して草笛号を巡回させたことにより、それまで草笛号を知らなかった子供たちへ周知ができ、新規の子どもや親子連れの利用者が増加した。現在は、コロナ対応の状況がかわり若干利用者は減ってはいる
委員	親に図書館まで連れて来てもらわなくても、休みの日に地域で借りられるよう、子供が本に触れる機会を増やすことが、読書好きの大人を育てるのだと思う。
委員	グループホームに草笛号が止まっているのを見たことがあるが、グループホームからお願いされたのか。
事務局	希望によるものである。巡回については、運転手等、職員の雇用時間の中でいかに運行予定を組むかが知恵の出どころとなる。少子化が進み、ステーショ

	<p>ンの利用人数が少なくなり場所によってはゼロというところもある。そういったステーションをやめるのではなく、違うステーションと一緒にできないか等を含めて、希望のあるところの願いを叶えられるよう知恵を絞っている。</p>
委員	<p>ホームの皆さんはなかなか図書館まで足を運ぶということができない。住宅型有料老人ホームなどに入られている方の中には、自分で本を読める方もいる。希望できるのであれば、そういう方のためにもいろいろ検討していただきたい。</p>
事務局 委員	<p>工夫しながらなるべく応えたいと思う。</p>
事務局	<p>以前、岩村田小学校に草笛号を持って行き、職員による説明があった。一日司書を経験した子どもたちは、草笛号の中を見る機会がありますが、そうではない子どもたちは図書館側から学校に出向いてPRしていただきたい。</p>
事務局	<p>今年度、小学校の生活科と社会科体験で図書館に来館したクラスがあり、草笛号を見学した。可能であれば、定期的に回れるといいと思うが、夏休みに開催している「わくわく実験室」の際には、会場校へ草笛号を持って行き、中を見学して本を借りるという体験をしてもらっている。今年度は、コロナ禍によりできなかったが、今後も考えていきたい。</p>
	<p>(2) 令和5年度運営方針と事業計画(案) (資料p.9~13)</p>
事務局	<p>【事務局から説明】</p>
委員	<p>井出孫六さんの資料は全国的に関心を持っている人が多いと思うが、広報、宣伝等はどのように考えているか。各大学図書館に連絡すればある程度見ていただけと思うが、具体的なお考えはあるか。</p>
事務局	<p>デジタルアーカイブ化を考えている。寄贈の段階である程度整理されているが、エクセル等により資料の整理をする。量的な問題もあるので公開までには最低でも1年はかかると思う。</p>
	<p>年度の図書館講座は、孫六氏著書の「桐生悠々」に刺激を受けてジャーナリストを目指した青木さんに依頼予定である。本の持つ力を皆さんにも伝えたい。「どんな状況でもコオロギは鳴き続ける」という言葉で表現されている「桐生悠々」の生き方に自分を重ねた孫六氏の人柄やいろいろな著書に込められた願いを、幻冬舎編集長の小木田さんに聞き役をお願いし、青木氏に語っていただくことを企画している。</p>
	<p>直木賞作家なので、外部からも興味があるとか、お手伝いしたいとかの声をいただいているが、まずは整理をきちんとして準備を進めている。皆さんからもお知恵をお借りしながら良い提供方法を考えていきたい。</p>
委員	<p>目録作りとかそういうことはもう考えて進み始めているか。</p>
事務局	<p>そこからになる。遺族の方が私達に声をかける前に古本屋等に渡した部分もあるので、それを含めて、どの範囲まで資料が広がっているか確認しながら進めている。先月、松本の古書店が譲り受けた本を写真に撮ってきてリスト化しており、そんなところからになるので、時間をいただきたい。古書店に渡った部分に</p>

委員	<p>については、売ってしまったものもあるので、全部の記録がないと言われてしまうと苦しいところであるが整理をしていきたい。</p>
事務局	<p>9ページにあるデジタルアーカイブと郷土資料のデジタル化というのは何か。スキャンデータか。</p>
事務局	<p>アーカイブ化というのは、今現在紙ベースで保管しているものを、スキャナーで読み取り、PDF、TIFF、EPUB形式にデジタル化をしてパソコン等で保管をします。紙媒体では、閲覧が出来なかったものもデジタル化することで閲覧も出来、ホームページ等でも活用できるようになる。</p>
委員	<p>開示の仕方は、いろいろとあるが、サーバーに入れてインターネットから閲覧する方法、特定の端末やハードディスクだけに入れて、その端末でしか見ることができないというやり方もある。何が問題ある資料以外は、インターネットに置いていいと思う。例えば孫六さんは「井出孫六」とインターネットで検索するとものすごく出てくる。ネット上に公開にすれば、たくさんの人に閲覧されるし、学術的に知りたい人には一番使える。特定の場所の特定の端末でしか見ることができないとなるとそれが限られてしまう。開示の仕方がすごく難しい。</p>
事務局	<p>問題は著作権の処理。井出孫六さんに関しては、著作権の保護期間が70年に伸びているので、その部分を遺族に許諾を取る必要があります。例えば、信濃佐久新聞の中に小説があったりするが、そうするとそれは著作権が発生する可能性がある。福井県立図書館がやっているが、公衆に出す場合の著作権がフリーであるかの確認する、申出があった時に著作権料を払うというようなシステムも出している（裁定制度）それを利用したい。著作権が今後一番問題になってくる。</p>
委員	<p>著作権法を一番簡単にクリアするのは有料アクセスというやり方もある。</p>
事務局	<p>有料ということは、公共図書館では難しい。良い形で皆さんに提供できるように研究したい。</p>
委員	<p>臼田図書館で、新小学校の利用者登録という計画があるということであるが、これは新小学校の図書館との連携が視野に入っているのか。それとも、子ども達だけが、臼田図書館を利用するための登録をするというものなのか。</p>
事務局	<p>もう既に学校図書館との連携はしている。子ども達の利用の部分として、臼田図書館の取組みをお話しさせていただいた。</p>
委員	<p>連携の中身は具体的にどのようなものか。</p>
事務局	<p>資料の提供や学校司書研修の案内をしている。学校は学校図書館法に支えられている組織であるので、学校長が図書館長となる。学校の教育目標を達成するために学校図書館があるので、お互いの役割を踏まえつつ、連携をすることが大事だと考えている。</p>
委員	<p>新しい図書館について、広報の中にコーナーを設けて、進捗状況を多くの方に知らせてほしい。それが難しいとしたら、公民館報の中のコーナーを活用してもいいと思う。また、資料6ページに令和4年度の事業報告があるが、おはなしの</p>

	<p>会などは、中央図書館では6回やって142人の参加があり、1回に20人以上が来ている。他の図書館は10人以下。例えば、小さい子に向けた乳幼児学級みたいなものは、市の中で人気が高いと聞いているので、開催の様子を写真掲載して知らせることで、小さい子と過ごされている親に伝わると思う。先程の草笛号についても利用風景を写真で載せて具体的に人が集っている様子を市民に伝えてはどうか。また、新しい図書館も多くの人に関わっていることを具体的に宣伝していくと良いのではないかと思う。</p>
事務局	<p>委員がお話しされたことは、要するに今言われる「見える化」。確かにいろいろなことが、自分の目で見えると参加や行動につながるのととてもよいと思う。</p>
委員	<p>13ページ(1)①の協議会の開催が年3回の部分に図書館の建替えに意見を反映とあるが、これは協議会だけでなく、図書館建替の検討委員会の皆さんにもどういうふうに考えているか意見を聞けるのか。</p>
事務局	<p>それは別の組織なので可能か考える。協議会は2回では、通常の計画についてだけ意見をいただくようになってしまうので、そこにプラスとして新しい図書館についてのご意見をいただくため来年度は3回行う。</p>
委員	<p>ここにおいで委員だけではなくて、他の委員の皆さんと一緒にということか</p>
事務局	<p>検討委員会の委員はいろいろな場所から来るのでそれが可能かどうか検討する。日程等があるので、いただいた検討委員会の意見の中に入れ込みたい。また、先ほどの広報の件については、事務局としても佐久ライフや公民館報に入れたい思いはある。去年は佐久ライフの中に特別号を入れさせていただいた。以前は図書館だよりが独立していたが、公民館報の一部になり今の状態になっている。予算等の都合もあるので、広報とも相談しながらやっていきたい。</p>
事務局	<p>記憶が定かではないが、広報を減らしたのは区長さん方から「配布物が多すぎて配るのが大変だ」という意見があったからで、集約された。</p>
事務局	<p>配布物が多いという問題はあった。それからページ数もかなり多く、見にくいというご意見もいただいていた。必要な情報の詳細はホームページ見ていただくことでいいのではないかという意見もあり、最終的にはいろいろなものを統合して月1回とした。以前は2回発行していたので、区長さんも大変だった。そのような経過の中で、簡素化し必要な方は別の情報の取り方をした方がいいとなった。</p>
事務局	<p>そういった経緯も踏まえつつ、やはり「見える化」は必要なことである。今年、ボランティアの皆さんに「図書館の風」という素敵なお便りを出していただいている。せっかく市民の皆さんの関心が高まってきているので、来年度以降も、継続して関心を寄せていただけるようにしたい。</p>
委員	<p>特集は組めるので、ここ紹介したいっていうものは、広報の方に申し出れば、当然そこは多めにすることができると思うのでそこは上手に使っていければと思う。</p>
委員	<p>書面のお知らせもいいと思うが、若い世代ではSNSを活用することが多いの</p>

	<p>で、図書館ができていく過程等をSNSに載せていくと気持ちが高まり、行ってみたいとかどんなものが出来上がるんだろうとか、こんなイベントもしているんだとか、いつ開催かな等、興味が湧くと思う。先程の草笛号も10分間隔でしたが、近くに来た時にお知らせが来ると便利。SNSの活用を検討してみてもいいか。</p>
事務局	<p>学校の連絡網もオクレンジャーですし、スマートフォンを持ってない親はいないというそういう時代かもしれない。</p>
事務局	<p>佐久市も佐久ステーションというLINEを活用した、メールマガジンのようなものがある。プッシュ通知で欲しい情報を選んでおくと、その通知が来る。そういったものを使ったりとか、SNSもあったりするが、どちらかという佐久ステーションというアプリを使った方が、その特定の部分だけ出てくるということがあるのでそういうものを使って広報していく方法もある。</p>
委員	<p>広報を工夫することでより知らしめることができるのでいろいろと工夫してほしい。図書館だよりのような紙ベースでは、掲載量が限られるのでSNSを活用し知らせていけば、情報がより開かれると思う。</p>
委員	<p>図書館とは何かと考えたときに広報も大事なことです。一番の本質として、きちんと本に親しむ環境があるということが大切。それさえあれば、おのずと人は集まるはず。小さい子供たちは、いろいろな本が読みたいし、見たい。図書館を利用し、気に入った作者は本屋で買うという方法もあると思う。何かきっかけを与える場であればいい。実際の図書館に親しめる環境があるかというのが一番のポイントだという気がする。</p>
事務局	<p>中央図書館建替再整備進捗状況について 【事務局から説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 市民アンケート・ワークショップについて（再整備関係資料1・2） イ 検討委員会について（再整備関係資料3） ウ 視察について（再整備関係資料4）
委員	<p>新図書館のコンセプトはこれから決めるのですね。再整備関係資料1ページの内容がたたき台ということでよろしいか。</p>
事務局	<p>ワークショップでいただいた意見を入れ込みながら、このように考えている。</p>
委員	<p>すごい内容だが、佐久市のような中規模の市町村でやろうと思ったときに、金額的に中途半端だと思う。いろいろなことに手を出して、あれもこれもしようとすれば全て中途半端になってしまう。せつかくこれだけのメンバーがいるのだから、コンセプトは決めるにしてもそのコンセプトをどうやって具体化するかの中については、優先順位をつけて切り捨てることも大事なことはないか。</p>
事務局	<p>最終的にはそうならざるを得ないと思う。</p>
委員	<p>様々な情報や学習機会を提供するとありますが、今の時代、個人ベースでいくだけでもできる。それを敢えて図書館という場でやろうとした時に相当、広範囲になってしまう。</p>

事務局	<p>自分で検索できる方もいるが、いろんな住民説明会で話を聞いていてもやはりその差はかなりある。限られた予算と人の中で、実現できる部分とそこはやりたいが割愛せざるをえないという状況もあり、市民の皆さんとお互いに納得しながらの合意形成が大事だと思っている。行政だけで作るわけではなくて、良い図書館というのは、皆さんと作る図書館だと思っている。</p>
委員	<p>協議会の視察で安曇野市立図書館を見学した際、本を読むスペースから外で子どもたちが遊んでいるのが見えた。館長さんに、読書スペースの前に子どもたちの遊び場があるのか訊ねたところ、以前はこの場所が、運動場だったということ。本を読みながら外で子どもたちが滑り台などで遊ぶ姿が見えるのは、とても良いと思った。</p>
委員	<p>外の光が前から入ってくるというのは一番良い。中では影ができてしまう。あともう一点、書庫に新聞等がたくさんあった。新聞は新聞社でいくらでも残してある。昔はマイクロフィルムだけど今データベースでとったものがある。</p>
事務局	<p>佐久市立図書館は、ある一定期間を置いてデータベースで皆さんに資料を見ていただけるようにしている。</p>
委員	<p>そういったものとパソコンがあれば、あとはもういらないと思う。</p>
事務局	<p>そうですね。その辺は、慎重に吟味をしていきたい。スペースの問題や、市民の皆さんのニーズにもよる。そのようなことも含めて皆さんと合意形成をしていかれるといいと考えている。</p>
委員	<p>佐久市の旧町村、例えば、野沢町や中込町等の町誌は当然保存すべき資料であるが、二つの図書館に同じように保存されている。どちらかでもいいのではないか。</p>
事務局	<p>佐久市は公民館活動が盛んで、そこで町誌等の勉強をしたい方もいるようなので、現状を考え保存していく。</p>
委員	<p>面積に限りがあるため、保存場所に制限が出てくるはず。そのような場合どの部分をどの位確保するがポイントになる。図書館の管理も考えると、一か所にまとめる等を検討してはいかがか。</p>
委員	<p>図書館にある情報センターとしての機能ですが、地区館と同等水準ではなくて、まさしく中央図書館といえるような機能になるよう充実させる必要がある。また、市民アンケート調査ですが、地区は考えなかったのでしょうか。例えば、それぞれに図書館がある地区の利用者が、中央図書館をどのように利用するか等。その辺のところを分析しておいたほうが良い。場合によっては、中央図書館に近くこの図書館だけに来ている方もいる。</p> <p>その辺をもう一度アンケート分析し直さないといけないと思う。情報選択としての機能を中央図書館は最重点にする。そういう意味では、先ほど委員がおっしゃった通り重複資料は置かないということも必要かなと思う。さらにもう一点、先ほど学校図書館との連携についてお話させていただいたが、それは学校図書館の方は、いわゆる公立の図書館との重なりは法律的には難しい部分ありますが、</p>

事務局	<p>情報そのものをそれぞれの学校図書館と共有するシステムを作るべき。お金がかかるということだが、規模は小さいが、小諸市の小中学校は、学校にしながら公共図書館の本を借りることができる。学校図書館にある本は限られるが、中央図書館から借りることができた。それを朝読書に使わせていただいた。</p>
事務局	<p>市立図書館側が学校図書館のものを借りるというのはいないが、佐久市立図書館の蔵書はインターネットから見ていただいて、予約することができる。物流の関係も校長先生に許可をいただいて用務員が持ちに来ている。</p>
委員	<p>再整備の関係ですが、協議会委員の要望も可能な限り聞いていただけなのか。安曇野市の視察では、ボランティアや学習グループが活動するような部屋が図書館の外にあることで、ゆったりとした書架スペースが保たれているように感じた。複合施設については、検討が必要だと思った。</p>
委員	<p>先程の新聞の件になるが、研究をしていた立場から言うと地方版は実に大事な資料である。ところが、多くのところで保存されていない場合が出てきており、非常に不便した記憶がある。たしかに場所をとりで邪魔であるが、できるだけ工夫して保存いただきたい。見ていると、肝心なものがなくなっているケースがかなりある。</p>
委員 事務局	<p>新しい図書館は最終的にいつ頃決まるのか。 市の計画は、令和8年度を目途にという計画を立てている。ただ土地の問題などいろいろあるので、ずれ込んだりするかもしれない。</p>
委員 事務局	<p>令和8年度完成ということか。 目途にしている。目途ということは、条件が揃った場合には8年度でいけるだろうということ。それまでには議論はし、準備は早めに進めていきたいと思っている。ただ、いろいろな条件があり、予算や土地、複合化も視野に入れており、時期がずれることもあるかもしれない。</p>
委員	<p>一番心配なのは、大規模な総合的な施設等を作って、周辺の小さい図書館を縮小や廃止してしまうというのでは困る。</p>
事務局	<p>個別施設計画があるが、図書館は今現在あるものは残すという市の方針。中央図書館も最初は縮小、少し面積を減らす話だったが、現状プラスアルファということに計画が変わっている。</p>
	<p>(4) その他 事務局より今後のスケジュールについて説明 5 閉会</p>